



長井市

6 撞木橋

山形県 長井市

地域住民有志が「撞木橋献燈会」を組織し、寄付金を募り修復・復元。地域のシンボル、誇りとする橋。

長井市は、元来伊達藩片倉氏の城下町として発展したが、江戸期には最上川の水運の発達により商業都市としての性格を強めた町である。

撞木橋の歴史は古く、慶長年間にさかのぼる。橋名の由来は、橋の形状が撞木に似ているところによるが、幕末の文人長沼牛翁が橋のたもとに丁橋庵を建て、長井八景のひとつと数えられてからその名がひろめられた。

昭和六年に架け替えられた撞木橋は、

凝ったデザインの高欄とともに、四隅の親柱に高欄灯が設置され、くもりガラスを通し橋面を照らしていたが、戦時、橋名板と高欄灯が供出され、以後そのままになっていた。

その後、地域青年の「半世紀も活躍してきた古い橋に電灯をよみがえらせて感謝しよう」との提言に、市民有志が募金を行い、市政三〇周年の昭和五十九年に、県や市の協力の下に橋名板と電灯を修復し、地域のシンボルとして撞木橋を甦らせた。



データボード

■所在地

山形県長井市栄町

■応募者

長井市役所

☎0238-84-2111